

報 告

第 36 回日韓技術士会議報告

A Report on 36th Japan-Korea Professional Engineer Conference in Okinawa

日韓技術士会議実行委員会

“メンソーレ沖縄”一連の行事は、2006年11月12日正午過ぎ、那覇国際線出迎えロビーからスタートした。沖縄県技術士会・備瀬ヒロ子会長をはじめとする沖縄県技術士会のメンバーがミス沖縄と地元の男女青年代表を随伴し待ち受けていた。東アジアの国際観光地立国を目指す沖縄県の人たちの心遣いはあたたかく、参加者の顔はほころび会議の成功を予感させた。

韓国技術士会からはこれまでで最大の参加者があり、準備に当たった関係者は張り合いと十分な手応えを感じた。このところ日・韓両国から若い世代の参加が増えてきた。これからは世代的には老・壮・青とバランスのとれた価値観を共有できる技術者集団として、現代社会に何かしらの貢献ができることが期待される。

沖縄県は、日本国民として忘れてはならない悲惨な教訓の足跡が残る場所である。集合の当日、両国の技術士が真っ先に表敬したのは、平和の礎、韓国人戦没者慰霊碑への参拝からである。青

年達はサッカーに友好的汗を流した。会議の日本での開催は、今回で北海道・札幌から沖縄県まで縦断したことになる。両国技術士の友好関係は長く続けられ誇らしい存在であり、会議に参加した共通体験は次の世代に確実に受け継がれよう。

【会議概要】(詳しくは技術士会ホームページに公開)
全日程：2006年11月12日(日)～11月14日(火)
参加者：日本側132名(技術士(修習技術者)114名, 同伴者14名, 事務局4名), 韓国側189名(技術士89名, 同伴者96名, 事務局4名)

会議の運営、基調講演「主題」、分科会、ポスターセッションなどについては、開催国の発案により両国の委員会で協議し6カ月前までに決定している。特に主題については包括的に広い視野から、東アジアの安定的な平和と友好親善、双方の国民の発展に関係する未来志向型の課題を採り上げるようにしている。

晩餐会については、開催地の伝統文化など特徴を採り入れた実行委員の提案を受け入れ、決められる。参加者には開催国の技術士会長が参加証を付与する。

■第1日目 12日(日) 午後

A コース	平和の礎、世界遺産首里城、観光 日本側の参加は希望者のみとした。韓国側はサッカー参加者の他は全員参加。
F コース	第2回日韓青年技術士親善サッカー大会 会場：那覇市南風原町黄金森公園陸上競技場 参加者：約110名 正式ゲーム結果、1：1引分け。優勝カップは第1回を起創した韓国青年技術士会が用意していたが引分けで沖縄県技術士会に記念贈呈。試合後、青年部会親善交流懇親会(青年以外の技術士及び同伴夫人も多数参加)

■第2日目 13日(月) 終日

本会議 会場 ホテルロイヤルオリオン

式 典	両国会長挨拶(日本側 都丸徳治, 韓国側 李桓範), 来賓祝辞(沖縄県知事代理副知事嘉数昇明氏, 内閣府沖縄総合事務局局長竹林義久氏)
基調報告	両国委員長報告(日本側 中山輝也, 韓国側 李康鎬)



写真 式典の様子

基調講演 (日韓共通して 学びの時間)	主題「社会開発における技術士の役割—ものづくりの心—」日本側 垣内直 (建設) 基調講演に対して発言 韓国側 全相伯 (建築構造)
	主題「Professional Engineer's Role for the Sustainable Development -Attitude of Mind for Creating Technology」韓国側 李宣 (道路及び空港/交通) 基調講演に対して発言 日本側 伊藤徹 (建設)

第1分科会「観光・環境・資源エネルギー」	
「サンゴ類等の養殖販売事業」	平良米康 (建設/総合)
「沖縄都市モノレールの整備効果と今後の新たな展開」	当間清勝 (建設/総合)
「セエマンカム干拓地区観光レジャー型土地利用活用方案」	柳忠鉉 (都市計画)
「土壌浄化法による環境整備事業」	木村弘子 (上下水道)
「水と生命体そして未来」	金又俊 (水産製造)
第2分科会「建設と安全」	
「新潟下越地域及び東京都心部における大規模停電の要因と対策」	笠原弘之 (電気電子)
「鉄筋コンクリート構造物の耐震補強及び応急補強に関する研究」	宮城敏明 (建設/総合)
「文化財 安全管理の問題点 法制化の必要性」	金慶鎮 (建設安全)
「国土開発側面への構想発案 —韓国の『内陸運河』建設—」	鄭武鎔 (都市計画)
「研究実験室 類型別 安全管理 標準 MODEL 開発」	金斗煥 (化工安全), 韓宇燮
「仮設土留壁体の先行荷重量での壁体変形等の詳細分析」	金學清 (土質及び基礎)
第3分科会「技術者資格と教育 (倫理・CPD)」	
「日本の諸資格制度考 技術系資格の課題」	宮原宏 (建設)
「技術者の国際的活動と倫理規範」	橋本義平 (情報工学)
「韓国技術士法の最新改正方向」	許南 (非破壊検査)
「APEC Engineer / EMF 国際技術士の FTA 制度通則 韓—日 技術士 協力 方案」	沈淳輔 (水資源開発/土木施工)
「韓—日 FTA 協定へ関連 GATS 規定と Engineering 業務実行時の倫理規定」	全相伯 (建築構造)
「技術士 技術向上教育・訓練と課題」	張興鎮 (道路及び空港)
第4分科会「自由課題 英語発表」	
「Japanese environmental management system : Eco-Action21」	末利鎌意 (化学)
「Recent Status of New & Renewable Energy (NRE) in Korea」	趙明濟 (空調冷凍機械)
「Current Status of Telematics Market in Korea」	余浩榮 (情報管理)
「High-Tech cooperative clusters: future of Korean balance development」	李康建 (都市計画)
第5分科会 青年委員会「自由課題 英語発表」	
「The Activity Report on the Working Group "Traffic Management Orchestra" in Chubu Branch」	幡野貴之 (建設)
「Red soil erosion and conservation in Okinawa islands」	富坂峰人 (建設/総合), 黒崎靖介 (建設/環境/総合)
「Practical use of local energy」	有地裕之 (上下水道)
「Safety in Hydrogen Economy」	尹在建 (ガス)
「火力発電所の環境障害の種類と対策」	金延洙 (発送配電)
「日常生活でのガス安全」	邊壽童 (ガス)

晩餐会 (来賓)	那覇市長代理 収入役 翁長政俊氏 琉球大学学長代理 工学部長 宮城隼夫氏 内閣府 沖縄総合事務局次長 宇塚公一氏
----------	--

- *ポスターセッション 論文以外に小論, 報告, コラム等を1枚にまとめ展示発表, 日本9点, 韓国1点
 - *レディースコース (両国同伴者) 観光, 昔の沖縄の琉球村, 花の東南植物楽園など
 - *友好親善晩餐会 (18:30 ~ 21:00) 参加者全員を一会場で収容できず, 二会場での開催となった。学び, 発表, 意見交換した後, 地元の方から「ぶくぶく茶」のもてなしがあり, 討議の熱気を癒した。開幕は玉城流翔節会 玉城節子家元らによる琉球舞踊の「かぎやで風」(これは琉球王朝時代においては国王と国賓の御前で演奏し, 舞う最高のものとされている) 老, 壮, 青3世代による象徴的な意匠と仕草の荘厳な伝統文化美の世界の披露から始まった。会場は民族衣装にしつらえた韓国のご婦人方の彩とあいまって, 晩餐会は盛り上がった。最後は全員で沖縄の伝統の群舞カチャーシーで踊り連帯感を新たにしました。
 - *産業・観光視察14日(火) バス4台で沖縄県北部観光に向けた。風光明媚なサンゴの台地の万座毛, 名護パイナップルパーク, 世界一ともいわれる「沖縄美ら海水族館」, 巨大なジンベエザメ, マンタ, 海の世界を堪能した。名護オリオンビール工場見学をしてフレッシュビールで乾杯。公式日程を締め括った。
- 今回は韓国ソウル市開催が予定されている。今回の那覇市開催に当たり, 技術士数の少ない沖縄県技術士会が備瀬ヒロ子会長, 真栄田義安副会長, 来間玄次副会長, 砂川徹男前会長を始めとし, 皆で精魂こめて準備・対応していただいたこと, そして, 日韓技術士会議実行委員の心配りと協力に感謝したい。

宮原 宏 (みやはら ひろし)
技術士 (建設部門)

M.C.E ミヤハラコンサルティングエンジ
ニヤーズ 主宰技術士
e-mail : h.miyahara@mx8.ttcn.ne.jp

